

平成26年度中学校武道授業(銃剣道)指導法研究事業



千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、平成27年2月27日～3月1日の3日間、『平成26年度中学校武道授業(銃剣道)指導法研究事業〔主催＝(公財)日本武道館・(公社)全日本銃剣道連盟・日本武道協議会、後援＝文部科学省・勝浦市教育委員会、協力＝勝浦市立勝浦中学校〕』が実施された。

今回は、銃剣道未経験者の保健体育科教員が勝浦中学校の生徒19人(男子10人、女子9人)の協力を得て、教える側も教わる側も初心者という現場さながらの模擬授業を展開した。

■1日目(2月27日)

開講式の主催者挨拶では、鈴木健全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事より「銃剣道に関して今まで研究してきた成果をひとつの集大成とし、最終的な確認をして具体的な指導法の提示が出来たら良いと思う。初参加の先生には忌憚のない意見を出していただき、充実した研究協議にしたい」と述べた。

続いて、三藤芳生日本武道館理事・事務局長からは「この研究事業には2つの目的がある。平成27年度に銃剣道の実施校を確保するための知恵を出し合う機会にすること。もうひとつは実際に銃剣道を指導する場合に約10時間で何をどう伝えるかを検討することである。学校現場に外部指導者を招いてまで銃剣道を実施する場合は困難な状況にあるが、将来を見据え、視野の拡大の可能性を検討することが重要。来年度、銃剣道の授業実施校の確保のため、足がかりとなるような3日間になることを期待する」と主催者挨拶を行った。

記念撮影後、鈴木副会長より現在の全日本銃剣道連盟としての取り組みの中で「日本武道館

との共催により全国指導者研修会では指導者の養成、指導法研究事業では銃剣道における指導資料の作成を行ってきた。しかし、銃剣道への関心が低く、銃剣道自体を知らない人が多いのが現状である。これからは銃剣道の特性や利点を理解して戴き必修化に向けて努力していきたい」と方針を説明した。銃剣道のアピールポイントは次のとおりである。

- ① 大きな事故は極めて少なく「安全」
- ② 技の構成が突き技のみで「技術習得が容易」
- ③ 木銃は樫の木を使用しているのでほとんど壊れることがなく「経済的」かつ「安全」
- ④ 用具については全面的に銃剣道連盟が支援する

引き続き、翌日行う模擬授業のリハーサルを行い、初日の日程を終了した。

■2日目(2月28日)

この日は、勝浦中学校の生徒19人の協力を得て、模擬授業を実施した。午前中は銃剣道未経験者の清水陽介研究者が一人で、午後からは清水研究者と外部指導者という立場で滝沢元気研究者が加わった。



午前は、第1学年で実施する構えや足さばき、木銃の持ち方など基本動作を中心とした授業を

展開した。4 グループに分かれた後、足さばきリレーやグループ対抗の足さばき演技を行い、コミュニケーションを図りながら基本動作の習得を目指した。また、新聞紙や多目的ボールを使用した目標物を突く学習では、突く動作だけでなく、新聞紙を持つことで良い突きの感覚を理解させることやボールは山なりに投げると剣先が上を向いてしまい正しい突きの形にならない。また、ボールを狙いすぎると前傾姿勢になってしまうなどの説明がなされた。

午後は、滝沢研究者が授業者となり、3 人組で応じ技の打ち払いを行った。2 人がペアを組み、1 人は払う人の手の位置に手を差し出し、払う際に手と手がぶつかることで正しい手の動かし方になることを生徒自身を確認させた。



三人組で払う感覚の確認

模擬授業の最後には、全員が見学する中、男女各 1 組が演武を行った。授業終了後のアンケートでは「新聞紙を使った突きの練習が楽しかった」、「グループ発表のときにすり足がうまく出来てうれしかった」など一定の効果が得られた。しかし、一方で「払い」が難しいと答えた生徒が多く、今後の指導法の課題のひとつとなった。

模擬授業終了後の検討協議では、授業者の清水研究者が「専門は水泳で、銃剣道を教えるのは初めてのこと。指導案を読んだだけでは理解できない部分が多かった。動き自体は単純なのでやりやすかった。授業で採用する時には、ほとんどが未経験者として行うことになると思うので、経験値に差がなく、全員がスタートラインに立った状態から始められるので逆に取り組むやすい教材だと思う」と授業を振り返った。

外部指導者として授業を行った滝沢研究者からは「(清水先生に対し)初めての授業としては 80 点。銃剣道未経験ではあるが持ち前の授業力でカバーしていたと思う。今後は研修会に参加していただき、もっと銃剣道を知ってもらい、指導力向上に努めていただきたい」と述べた。



模擬授業終了後の検討協議

■3 日目 (3 月 1 日)

最終日は第 3 学年時の内容「防具の着装」について、授業形式で着装の方法について検討を行った。紐の結び方はどの方法が授業に適しているのか、防具の置き方はどのように指導するかなどを再確認し、統一見解を図った。

閉講式の研究者講評では、今回研究者として初参加の清水研究者から「今年度初めて参加させていただきました。現在、実施校が 0 という現実に対し、私の勤務校が突破口になればと思う。銃剣道という教材が改めて魅力あるものと再確認する良い機会となった」と充実した 3 日間になったことを述べ、本事業を締めくくった。



◇研究者

滝沢 元気 (新潟県立三条商業高等学校 教諭)
 菊池 聡 (岩手県岩泉町立小本中学校 教諭)
 宮内 佑輔 (大阪府池田市立細河中学校 教諭)
 田村 聖一 (静岡県富士市立富士南中学校 教諭)
 清水 陽介 (神奈川県平塚市立土沢中学校 教諭)

◇連盟事務局

鈴木 健 (全日本銃剣道連盟 副会長兼専務理事)
 衛藤 敬輔 (全日本銃剣道連盟 事業部次長)

◇日本武道館事務局 2 名 (敬称略・順不同)